

桜ヶ丘だより

鹿児島大学病院広報誌

Kagoshima University Hospital PR News



特集

坂本泰二 新病院長に質問しました！

大学病院長就任

トピックス

新型コロナウイルス感染症患者搬送
シミュレーション(訓練)を実施しました

©鹿児島大学病院基金への寄附者様ご芳名一覧

53
2020.6

特集

大学病院長就任

坂本 泰二 病院長

鹿児島医療の最後の砦



医療・福祉の世界が

ドラステックに変わりゆく今、
高い総合力を活用して地域医療を牽引する、
大学病院の使命。

－ 病院長就任と同時に、新型コロナウイルス(COVID-19)による社会の危機的状況に向き合われている現在のお気持ちは？

コロナウイルスの流行は、歴史的にも非常に重要な意味合いを持っています。今後 10 年くらいかけて変わっていったであろうことが、一気に変化を余儀なくされています。ネガティブに捉えると、緊張を強いられる大変な時期だという面はありますが、世界史的にも重要な局面に立ち会うことができ、病院のあり方や福祉、経済などを考える大変貴重な素晴らしい機会になっています。

－ 眼科教授のみならず日本眼科学会常務理事やAMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)の研究等でも中心的役割を担われてご多忙なかで病院長を引き受けられた理由と、目指す院長像を教えてください。

夏越先生(前病院長・夏越祥次教授)の下で働いて、大学病院の運営が大変なことはわかっていましたし、現在、想像以上に困難なことも経験しています。けれども、つねに新しいことにチャレンジしたいという思いがありました。それぞれ異なる専門分野のスタッフをまとめる大学病院のトップは、商店街や町内会の会長のようなものです。どうまとめていくか思案中ではありますが、いま病院には、再開発とそれに伴う借入金返済という、ものすごい負荷がかかっています。その大きな負荷は、みんなが一つにならざるを得な

い動機になるかもしれません。

－ 魅力ある鹿児島大学病院づくりへ向けて、どのようにかじを切っていくと思われませんか？

魅力というのは、患者さんの立場からは、信頼できる最高の医療レベルを保ちながら、敷居の高くない存在であるということ。一方、職員からいえば、コロナ禍を契機に医療がドラステックが変わっていくなかで、もっとも変化に適應できる能力を持ちうる総合力の高い組織であるということ。質の高い人材もそろっていて、みんなやる気もある。そこをみんなに認識してほしいし、その高いポテンシャルに火をつけ、さらに高めていくことも私の役割。とくに、いまの社会変化の流れのなか、IT 分野に明るい若い人の力も必要です。現場の声を吸い上げ、能力のある人は肩書きにかかわらず、いろんな部署に積極的に登用したいと思っています。

－ COVID-19の感染がWHOによってパンデミック宣言されて以来、遠隔による学習形態や医療の提供など、短期間で新たな生活様式が生み出されています。

もう以前のように、病院やクリニックに患者さんがぎゅうぎゅう詰めの状態で集まることはないと思います。テレメディスン、オンライン診療といった、直接会わない診療に移っていくのは确实です。社会の流れに相当注意していないと、求められる医療を提供することはできません。その最初の

動きにとりかかるのは、やはり大学病院。実際、一部の開業医の先生とはインターネットを使った診療体制を構築しつつあるところです。遠隔医療が発達する一方で、外科的な技量、高度な医療技術には、現場での実践が不可欠です。そういった意味からも、とくに若い先生たちには大学病院をもっと活用して学んでほしいと思います。

— 鹿児島大学病院は「地域医療の最後の砦」という役割を自認し、遂行しているところですが、地域の医療機関の皆様をお願いしたいことは？

大学をもっと頼ってほしいということです。患者さんの紹介のみではなく、医療スタッフの教育や病院自体のスキルアップ、グレードアップに大学を

利用していただきたいです。大学も、地域の医療機関に患者さんのフォローアップをお願いするので、決して競争相手としてではなく、お互いwin-win の関係を築くことのできる組織として、ぜひ利用していただきたいと思います。

— 最後に一言。

医療というのは、社会や人のためにダイレクトに尽くすことができる、非常に尊い仕事の一つです。やりがいは必ずありますから、若い人、才能のある人にはぜひ入ってきてほしい。そういう人を応援することは鹿児島大学病院の使命ですから、そこには大いに期待してほしいと思います。

(聞き手:鹿児島大学病院 広報担当 副病院長 宇都 由美子教授)

素顔の

教えて！坂本先生！

Q なぜお医者さんになったの？

若い頃、医師という献身的な仕事に憧れました。読書好きだったので、遠藤周作、なだいなだ、トーマス・マンによる病気や医学をモチーフにした作品にも影響を受けました。

Q 眼科医を目指したのはなぜ？

昔から眼科は女性の多い診療科で、女性と男性が同等に意見を聞かせることのできる自由な雰囲気があったことも肌に合っていました。(綺麗な先生が多いのも事実ですが、これはオフレコでw)

Q 熊本のご出身だそうです、鹿児島の好きなところは？

5～6月の気候。植物の香りを含む爽やかな風は最高です。安くて美味しい洋食屋さんがあるのもいいですね。仲間を大切に作る気風も素晴らしい鹿児島の文化だと思います。

Q 健康管理はどのように？

宇都先生に勧められたのをきっかけに、一日おきに20分ほど、よろよろとジョギングするくらいです。

Q では最後に、ピシッと座右の銘を。

「至誠」。長く生きてると、研究では本当のことしか残らないし、人間関係でも嘘は通用しないということを、本当に感じます。なかなか難しいことですが、自分に恥ずかしくないようにしないと結局は失敗しますから、正直、至誠ということを大事にしたいです。

<profile>

坂本 泰二 (さかもと たいじ)



1985年 九州大学医学部 卒業
1992年 九州大学大学院医学系研究科 修了
1992年 カリフォルニア大学ドヘニー眼研究所 客員研究員
2000年 九州厚生年金病院 眼科部長
2001年 九州大学大学院医学研究院 眼科 助教授
2002年 鹿児島大学医学部眼科学教室 教授
2020年 鹿児島大学病院 病院長

専門医 ●日本眼科学会 専門医
指導医 ●日本眼科学会 指導医
指定医 ●15条指定医
●難病指定医
●小児慢性特定疾病指定医

役職

1999～ 日本眼循環学会 常務理事
2007～ 日本眼薬理学会 評議員
2015～ Japan macula club 常務理事
2015～ 日本網膜硝子体学会 常務理事
2016～ 日本近視学会 監事
2017～ 日本眼科学会 常務理事、専門医制度委員長
2017～ 一般社団法人日本専門医機構 基本領域研修委員会 眼科領域委員
2019～ 『Graefes Arch Clin Exp Ophthalmology』編集長

新型コロナウイルス感染症患者 搬送シミュレーション(訓練)を実施しました



病室から集中治療室へ搬送する様子(搬送確認のためのシミュレーションで、実際使用する防護具とは異なります。)

新型コロナウイルス感染症の国内での拡大を受け、鹿児島県から「第1種感染症指定医療機関」に指定されている鹿児島大学病院では、新型コロナウイルス感染症の中でも特に中等症から重症、重篤の患者さんを受け入れることになっています。それ以外に、鹿児島県と共同で県内のほとんどの病院の新型コロナウイルス感染症対策指導にあたっています。

病院内では、患者さんの受け入れや院内搬送を想定したシミュレーションを実施しています。

2月25日は「他の感染症指定医療機関から重症患者さんを集中治療室へ受け入れ」、4月27日は「新型コロナウイルス感染による肺炎で急変した入院中の患者さんを集中治療室へ搬送」、5月1日は「新型コロナウイルス感染症の患者さんを手術室へ搬送」の想定でシミュレーションを実施し、各約20～30名の職員が参加し、動線の確保、防護服の着脱、医療機器の使用手順、患者の隔離手順等について、改めて確認を行いました。

鹿児島大学病院は、これからも一致団結して医療に取り組み、患者さんに安心・安全・高度な医療を提供し、鹿児島県の「最後の砦」としての機能を果たせるよう日々精進してまいります。どうぞよろしくお願いたします。



救命救急センター入口から集中治療室へ搬送する様子



鹿児島大学病院基金への寄附者様ご芳名一覧



鹿児島大学病院基金へのご協力を賜りました皆様に心よりお礼申し上げます。お受けいたしました寄附金は、基金の目的に沿って有意義に活用させていただきます。ご寄附いただきました皆様方への感謝の意を込めまして、ご芳名等を掲載させていただきます。

なお、ご意向により、ご芳名等の掲載をご希望されない寄附者様につきましては、掲載いたしておりません。今後とも、鹿児島大学病院へのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和2年5月 鹿児島大学病院長 坂本 泰二

令和元年10月から令和2年4月までの寄附者様(順不同・敬称略)

- ◆個人
 - 【五十万円】 夏越 祥次
 - 【三十万円】 坂本 泰二
 - 【二十万円】 又木 雄弘
 - 【十一万円】 浜田 長輝
 - 【十万円】 山崎 要一
宇都 由美子
下堂 衛
河野 嘉文
岡野 晃
 - 【五万円】 有嶋 拓郎
鶴丸 高久
 - 【三万円】 西村 正宏
宮野 英彦
又木 ミツ子
佐藤 秀夫
岩下 正美
 - 【ご芳名のみ掲載希望の寄附者様】
佐藤 雅美
嶋 広子
河野 竜一
脇野 龍也
中村 智子
榎 一晃
益田 将吾
喜多 芳昭
平山 雅浩
垣花 泰之
戸高 秀栄
市村 カツ子
鹿児島大学病院
手術部看護師一同
片平 聖子
- 黒野 祐一
田淵 みな子
大夫堀 昌子
藤原 義宜
松元 単人
有本 一華
伊東 小都子
堂脇 佑美
宮之原 郁代
大堀 純一郎
井内 寛之
永野 広海
川島 雅樹
原田 みずえ
宮下 圭一
喜山 敏志
田代 稔
伊牟田 均
前村 泰子
内門 泰斗
西谷 佳浩
荒木 智晴
榎並 次男
中園 康弘
吉満 誠
斉藤 裕子
谷 淳至
尾崎 建
福迫 剛
村山 貞敏
春田 壽英
石塚 賢治
大園 信栄
南 弘之
青崎 真一郎
田邊 弘美
片平 剛吉
植村 弘子
宮園 幸江
- ◆団体等
 - 【五十万円】 社会医療法人緑泉会
 - 【十万円】 医療法人潤愛会 鮫島病院
医療法人和芳会 小林中央眼科
公益社団法人昭和会
 - 【五万円】 九錦設備工業株式会社
株式会社大城
 - 【団体等名のみ掲載希望の寄附者様】
医療法人一誠会 三宅病院
医療法人静和会 みなと病院
田原内科循環器科
公益財団法人
鹿児島県民総合保健センター
社会医療法人青雲会
医療法人明輝会
クオラリハビリティーション病院
クオラリハビリティーション病院あいら
医療法人玉水会
株式会社ジャストタイム二十四
鹿児島水処理株式会社
有限会社湖上事務器
医療法人厚生会
電新デジック株式会社
有限会社ミツゾノ防水
株式会社 Misumi
川内市医師会立市民病院
有限会社毎日巧芸社
株式会社 しんぶく
株式会社愛歯
出水郡医師会広域医療センター
- 【掲載を希望されない寄附者様】
三十三名
十五団体

鹿児島大学病院基金へのご寄附のお願い

鹿児島大学病院は、先進的医療の推進、優れた医療人の育成、地域医療への積極的な貢献など、国立大学病院としての使命を果たしていくため、「鹿児島大学病院基金」を創設し、寄附のご協力をお願いしております。

つきましては、本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本学への寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ先

鹿児島大学病院 総務課 企画・広報係

TEL:099-275-6692 FAX:099-275-6846

Eメール: kufsyomu@kuas.kagoshima-u.ac.jp

基金ホームページ: <https://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/fund/>



表紙の写真

C棟屋上ヘリポートでの救命救急による患者搬送の様子。通常は7.0tまでのヘリの離発着が可能。特例的に約10.0tの自衛隊救難ヘリも離発着可能となる整備がなされています。



鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより 53号

発行日 / 2020(令和2)年6月発行 発行 / 鹿児島大学病院広報委員会

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6710 URL: <http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>

